

研究・実践助成 選考基準および研究成果の評価等について

(一財)住総研の「研究・実践助成」は、住関連分野における研究の発展や研究者・実践者の育成及び支援の観点から、将来の「住生活の向上」に役立つ内容で、学術的に質が高く、社会的要請の強い又は先見性や発展性等が期待できる「研究」・「実践研究活動」に対して助成します。

1. 選考基準・方法

1) 選考基準

目的・課題の設定が明確で、研究として一定の水準に達すること、新たな知見が存在すること、が期待され、かつ以下の一つ以上の項目に該当すると判断されるものとします。

- 1)学術的に質の高い研究成果。
- 2)公益性を有し、社会的要請が高い課題への取組み。
- 3)先見性・独創性に富み、将来の発展性が期待できる課題への取組み。
- 4)社会的な実用性の向上に貢献する事が期待できる取組み。
- 5)将来の成長が期待できる若手研究者による取組み。

2) 選考方法

都市計画、建築計画、建築史、住居学、建築経済、環境、構工法などの、住に関わる多様な専門分野の研究者で構成された選考委員会(研究運営委員会)の中で主担当・副担当を選任し選考を行い、委員合議の上、採否を決定します。

2. 研究成果の評価等

1) 評価と公開

提出された研究論文は、選考委員会(研究運営委員会)で査読し、主担当・副担当が作成した研究評をもとに、委員が合議して、評価をとりまとめます。

なお、これらの研究評は、研究論文とともに『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載します。但し、評価段階で期待した成果に不十分であると判断した場合は、その年度の『住総研 研究論文集・実践研究報告集』には不掲載とし、次年度以降に再提出を求めることがあります。

2) 住総研「研究・実践選奨」及び「研究・実践選奨 奨励賞」

『住総研 研究論文集・実践研究報告集』に掲載する論文の中から、明確な問題意識、学問領域を超えた多彩なメンバーによる研究チーム構成、具体的で豊富な調査、新しい事実の発見、研究成果の発展的広がりなどに優れたものを住総研「研究・実践選奨」(毎年2~3編)及び「研究・実践選奨 奨励賞」として選出します。

また、発表の機会を設けると共に、当財団ホームページ上で、受賞者リストと成果発表動画等を公開します。

3) 助成枠と助成金額の拡大(新設/有期)

従来の研究・実践助成枠の採択数を20件程度から25件程度に、助成金額を従来の100万円/件から130万円/件に拡大します。

(助成枠と助成金額の拡大は、2021年度研究・実践助成(2020年10月募集)から当面5年間を予定しています。)

選考委員会(研究運営委員会)(2020年度) (委員五十音順)

委員長	岡部 明子(東京大学大学院 新領域創成科学研究科 教授)
委員	秋元 孝之(芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授)
	蟹澤 宏剛(芝浦工業大学 建築学部 建築学科 教授)
	小伊藤 亜希子(大阪市立大学 生活科学研究科 教授)
	後藤 治(工学院大学 総合研究所 教授)
	齊藤 広子(横浜市立大学 国際教養学部 教授)